

一筆啓上

作左通信



第十八号 平成十五年十二月十九日(金)発行

秋のすがすがしい晴天のもと、十月三日(金)に、六ツ美西部小学校において、研究発表会が行われました。この発表会には、六〇人以上の参加者があり、大盛況となりました。西部小学校の研究のテーマは、「自ら学び、生き生きと活動する子の育成―地域のひと・もの・こととのかかわりを通して―」。開校以来、「地域に開かれた学校」を目指し、地域と一体化した取り組みを発表しました。

研究発表会には、お母さん方による読み聞かせ(ここにこタイム)、公開授業、各学年による分科会、研究発表、フォーラムなどが取り入れられていました。六年も続いている「読み聞かせ」(ここにこタイム)は、お母さん方(ママレンジャー)が、優しい語りで、子どもたちに読み聞かせを行っていました。公開授業では、なのはな学習(西部小の総合的な学習の名称)や地域の人を参加・参加させている国語や体育

などの教科の授業が行われました。どの教室も参観者が多く、大変興味深く見えていました。分科会は学年別で行われ、活発な意見の交換がなされました。

続いて体育館では、研究発表が行われました。これまでの実践の成果を、パワーポイントを使って、写真や図を取り入れ、分かりやすく発表しました。その後、フォーラムでは、「ママレンジャー」を代表して中田さん、「おやじの会」の石川さんが参加し、これまでの経過や苦労話が聞かれ、地域の方々がとても協力していることが分かりました。

参観者からは、「こんなに多くの地域の方が参加

しているなんてすごいです」「地域の方が授業やフォーラムに参加していて、ほのぼのとした感じがしました」など、地域と一体化した学校づくりが行われていることが実感できたようです。

みなさんの意見や感想をもとに、「地域と一体化した学校づくり」をさらに進めていきたいものです。



—多くの方が参観された研究会—